

本学クラブ活動内における SNS の望ましい使用法

—主に LINE の使途について—

岡部 もも子 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 鳥羽 賢二

キーワード: SNS, LINE, ダイレクトコミュニケーション

1. はじめに

現代社会においてIT化の進歩が急速に進んでいる。IT化の中でも、利便性の高いSNS¹の普及が進んでいる。しかし、そうした中で大手通信会社では、SNS利用についての注意点を公開している。2013年には、年間8,787件のネット上のいじめ²があったことが報告されているなど、目には見えないところでの問題点の指摘がある。

スポーツ活動は、そこで活躍する人たちみんなが共有する場でとりおこなわれるものであり、そこではダイレクトコミュニケーションが必然とされる。SNSの発達によってそのダイレクトコミュニケーションが省かれていく状況が増えつつある。そのことが、本来スポーツの中でとりおこなわれるべきダイレクトコミュニケーションに影響しているのではないかと思ひ、本研究を取り組むこととした。

2. 研究方法と目的

①文献調査: 大手通信会社の SNS 関連 コミュニケーションに関することの文献調査

②アンケート調査: 本学男女バレーボール部、男女バスケットボール部に所属している計145名を対象とし、LINEの使用実態を主にしたアンケートを実施。

以上のエビデンスをもとに、LINEの望ましい使用法を提言することを目的とする。

3. 調査結果と考察

「直接言いづらいことを LINE で伝えたことがあるか」の回答は、68%であった。また、男女別・学年別の回答も、すべて50%を超えている。このことは、ダイレクトコミュニケーションを省いていることが常態化してきており、そのコミュニケーション力に影響を及ぼしていることが推察できる。

LINE 普及以前には、ダイレクトに伝えていたことが、今は半分以上の学生が相手に伝えづらいうことは LINE に頼っている状況がうかがえる。その他 LINE の使用にまつわる弊害は表1にまとめた通りである。

表1 LINE 使用過多による弊害 (筆者作成)

①情報過多による重要情報の見落とし
②睡眠障害 ³
③既読機能における問題
④直接的なコミュニケーション機会の減少
⑤スタンプの使用による誤解

そこで、次にスポーツ活動に弊害が起こらないようにするための LINE の使用法について検討することとする。

4. まとめ

表2 クラブ活動内における LINE の望ましい使用法 (筆者作成)

LINEの望ましい使用法
①チームグループのLINEでは、不必要な内容の会話はできる限り控える ⇒スポーツシーンにおいてスムーズなコミュニケーションを図ることができる
②睡眠時のLINEの通知はオフモードにしておく ⇒十分な睡眠時間が確保できるため、スポーツパフォーマンスを十分に発揮できる
③受信する双方が既読機能に過剰にとらわれないようにする ⇒スポーツシーンやそれ以外において誤解を招くような問題に発展しない
④簡単にLINEでコミュニケーションを取らず、ダイレクトに伝えるようにする ⇒スポーツシーンにおいても意思疎通を図ることができる

文献及びアンケート調査のエビデンスをもとに、表2はクラブ活動チーム内におけるLINEの望ましい使用法についてまとめたものである。これをもって本研究のまとめとする。

主な引用・参考文献

ICT総研 (2014) 「2014年度 SNS 利用動向に関する調査」

¹ SNS は、ソーシャルネットワークサービスサービスの略で、登録された利用者同士が交流できる web サイトの会員制サービスのこと。(総務省 web サイト 引用)

²文部科学省「平成 25 年度 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」

³睡眠障害とは、睡眠がなんらかの原因で妨げられる状態で、主として不眠症をさすが、うつ病や統合失調症などによる睡眠量の減少や、脳幹の機能失調または障害による睡眠過剰もある。